


発行所
青森県高等学校・障害児
学校教職員組合
青森市橋本1丁目2-25
教育会館 017(734)7287
編集発行人 酒田 孝
購読料一部20円は組合費
の中に含む

今月の紙面
1面:教育条件整備の前進
2面:オンライン会議
がんばれ臨時講師



*HPへはこちらから→

Eメール aokokyos@olive.ocn.ne.jp ホームページ <http://aokokyoso.g2.xrea.com/> ブログ <http://plaza.rakuten.co.jp/sannkyoso05/>

組合の要求が、皆さんの署名が、教育条件整備を動かし始めました

特別支援学校設置基準策定、少人数学級実現へ大きな前進

全国にコロナ禍が広がる中、学校の役割が見直されています。このような動きの中で、これまで全日本教職員組合(全教)が、父母・保護者、地域のみなさんとともに取り組んできた教育条件整備に向けて、組合以外の場からも声が上がってききました。組合のこれまでの呼びかけが大きくなったのです。これらの動きは、全教の「#めざせ20人学級」プロジェクトと共鳴するものです。ネット署名等の協力を呼びかけます。

特別支援学校の「設置基準策定」が有識者会議の議論に上りました。

全教は、2012年から「設置基準策定を求める署名」とりくみ、これまでに50万筆を超える署名を国に提出しています。文部科学省に置かれた「新しい時代の特別支援教育の在り方に関する有識者会議」は6月30日、「これまでの議論の整理(案)」で、「特別支援学校における教育環境の整備」について、「在籍者数の増加により慢性的な教室不足が続いており」、「特別支援学校の教育環境を改善するため、国は特別支援学校に備えるべき施設等を定めた設置基準を策定することが求められる」としています。特別支援学校の教育環境について、

有識者会議がこのように議論を整理したことは重要で、このような論点を示したことは、私たちが父母・保護者とともに粘り強く続けてきた運動の成果です。

7月2日、全国知事会・全国市長会・全国町村会が連名で、「新しい時代の学びの環境整備に向けた緊急提言」を発表し、文部科学大臣に要望しました。「現在の40人学級では、感染症予防のために児童・生徒間の十分な距離を確保することが困難であることから、その対応が学校現場において大きな課題となっている。」としたうえで、「今後予想される感染症の再拡大時

にあっても必要な教育活動を継続して、子どもたちの学びを保障するためには、少人数学級により児童・生徒間の十分な距離を保つことができるよう教員の確保が是非とも必要である。」とし、「少人数編制を可能とする教員の確保」を強く要望しています。

7月8日、「経済財政運営と改革の基本方針2020(仮称)」「(骨太の方針)の原案に少人数指導体制の整備が盛り込まれています。萩生田大臣は7日の閣議後記者会見で、「40人のままで安全安心な学校運営ができるか、深く考えたい」と述べています。

7月18日、乾彰夫氏(東京立大学名誉教授)、内田良氏(名古屋大学准教授)ら少人数学級化を求める教育研

究者有志12名が、「安心・安全な少人数学級をすみやかに実施してください」「授業を詰め込みすぎず、仲間との学びと豊かな学校生活を保障してください」の2点を求めるネット署名を始めました。

20人以下学級の実現を!

これらの動きは、全教が発表した、「緊急アピール」子どもたちの成長・発達を保障し、いのちと健康を守るため、「20人学級」を展望した少人数学級を実現しよう」と軌を一にするもので、子どもたちの成長・発達を望むすべての人々とともに、「20人学級」を求めるとりくみを広げることができると可能性を示しています。現在、ネット署名等が進んでいます。御協力をお願いします。

坂道の風

コロナで始まった新年度、一斉休業、学校再開、高校総体の代替大会開催、コンクール中止と悲喜交々の一学期が終わった。様々な学校行事が、縮小、中止となる中、「修学旅行」はどうなるのか気になる▼我が家の中学生も楽しみにしている一大イベントである。やはり、行き先は当初の予定の関東地方から宮城・岩手方面へ変更となった。まずは中止ではなく、行き先変更で喜んで。親としても、関東方面は心配で行かせたくない。移動は全て貸し切りバスとのこと。そして我が校は、例年関西方面だが、どうなることやら:▼いつまでも、結論を出せばいいのか?職員の旅費は公費だが、生徒の旅費は親の負担である。中止となっても旅行会社へのキャンセル料は何かしか発生するという。心に残る修学旅行であってほしいと思う反面、万が一クラスター発生となったら▼経済活動優先、GOTO travelで、感染者数が増えるのぼり?なんとも難しい状況である。(憂)

めざせ「20人以下学級」!
教育予算ふやして輝け!
みんなのえがお



ネット署名はこちらから

今できるつながり方を模索して…

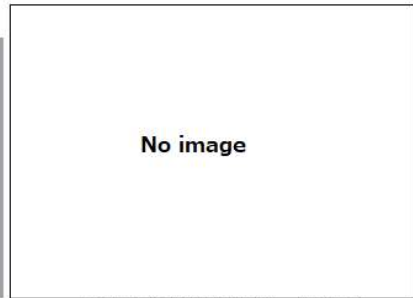
～オンラインによる全国会議開催～

未だに収束の気配を見せない新型コロナウイルスの感染拡大。組合活動の大きな軸である「集まって、語る」「会って話をする」という行動にも大きな制限をもたらしています。そのような中、全国の仲間とZOOMを使ったオンライン会議でつながることができました。全国代表者会議(7月13日)、青年部総会(7月5日)、障害児学校部総会(7月11日)、女性部総会(7月19日)、教組共関連連絡会総会(7月19日)などがオンラインで開催され、全国の仲間と情報を交流しました。青年部総会でのやり取りを紹介します。新しいつながり方が感じられます。

7月5日に青年部総会をオンラインで行いました。全国から主に20代、30代の教職員70名近くが参加しました。

主な討論の話題は、職場づくりや青年部活動に関すること、コロナ禍における学校についてでした。宮城県組合の青年部が、多忙化解消のために、部活動を担当したいかどうかを教員に選ばせるアンケートをとるべきであると県教委に要求すべく予備交渉中だという紹介がされました。興味深い取り組みだと思いました。コロナ禍に関することでは、複数の県から、学校の消毒作業を業者委託するための予算を付けるように県教委に要求している

私たちが、微力ではあるが、無力ではない。



オンライン会議の画面(一部加工)

という話がありました。また、学校の教職員が、コロナ禍における学校休業や再開等の決定について、知事などの記者会見を報じたメディアを通じて初めて知ることが多く、現場が混乱したという意見が多く寄せられました。

一方で、この休業や学校における教育活動の制限は、これまで忙殺されて気付かなかった私達の働き

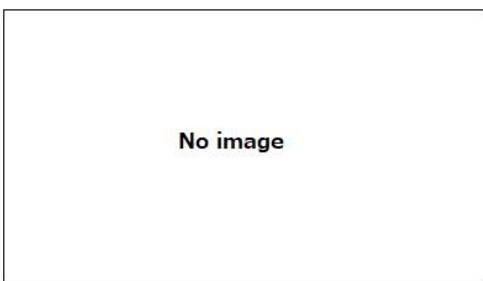
方、子ども達の学びについて、あらためて考えさせられるきっかけになったという意見も多くありました。

最後に、「私達は、微力ではあるが無力ではない。これからも子供たちの学びを保障するために、また若手教職員の人権を守るために活動していこう。」という目標を全員で共有し、閉

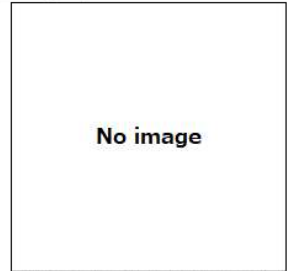
臨時講師の早期正式採用、待遇改善を高教組は支援します。

7月11日、『虎の穴』オープン模試を行いました。例年であれば、直前対策として集団討論演習も行うところですが、今回はコロナによる日程変更があり、集団討論がなくなりました。模試の実施となりました。受講者は真剣な表情で取り組んでいました。

7月18日、教員採用試験当日には、2次対策講座案内や青森県の情報(試験に出がち)を載せたチラシを配布しました。マスク、手袋着用で感染防止の配慮を徹底し、「頑張ってください」と声をかけて手渡ししました。



真剣に模試に臨む塾生



むけて、バックアップします。また、臨時講師等の待遇改善にも力を入れていきます。高教組新聞7月号で報告した問題も県教委に正式に申し入れます。組合の輪に加わりませんか。

高教組は、青森市内で確認された新型コロナウイルス陽性者と県立高校で接触があったことを受け、県教委に対して適切な対応を求める申し入れをしました。

さらなる陽性者の確認がなかったということで安心です。今後も、学校関係者からの感染疑い事例はあってもいいですね。学校での安全、安心を確保するための検査体制の確立、適切な情報提供と学校支援を、県教委へ要請します。

『虎の穴』2次試験対策講座

○教員採用試験2次対策講座『虎の穴オープン』
9/5(土)10:00~17:00
*どなたでも参加OK!(組合員以外参加費1,000円)
*小論文演習、模擬授業演習、個人面接講座を行います(受験校種別)。これまで15年間培ったノウハウで、重要な合格ポイントを学びます。

○教員採用試験2次対策講座『虎の穴3』(組合員限定)
9/19(土)14:00~18:00
9/20(日)9:00~12:00
*受験校種別に本番同様の総合演習(模擬授業・個人面接)等

会場：青森県教育会館 青森県青森市橋本1-2-25
参加申し込み、問い合わせ：青森県高等学校・障害児学校教職員組合(青森高教組)
TEL:017-734-7287 FAX:017-775-4221 E-mail:aokokyos@olive.ocn.ne.jp